

死に顔 ピース

#5

ひと言ではいい表せませんが、
死ぬことより、生きることを考えさせられました。

書き下ろしの新作部門のベストには、古城十忍・作演出、ワンツーワークス『死に顔ピース』(ザ・ポケット)を挙げたい。2011年は”死”を巡る芝居が、いつもより切実さを伴って上演された年だろうけれど、本作は、ふいにガンに襲われ、余命を宣告された2児を持つ女性看護師の最後の日々を、末期医療に取り組む医師側の対応と合わせて描く。

ヒロイン(水戸部千希己)は、死をなんとか受け入れ、やっと平静を得るものの、他者から励まされると、逆に「もっと生きたい」という欲望が突き上げてくる。その心情の転変・動揺を、丁寧に、慎重に、傷ましく、愛おしく、震えるように、万感が込められて描かれる。

老来、涙もろくなっているとはいえ、恥ずかしくなるほど落涙。涙の量が即、傑作たるを保証するわけではないけれど、観客は患者と一体化しつつも、医師側の一定の”距離”にもまた同調を迫られるのである。

浦崎浩實(2011舞台「ベストワン・ワーストワン」より、『テアトロ』2012年3月号)

とても感動しました。患者さんの気持ち、支える家族の気持ち、本当にリアルに演出されていました。人は誰でも死んでしまいます。自分はどうやって最期を迎えるのか……まったく想像もつきませんが、私も笑って「楽しかった、ありがとう」って逝けるといいなあって思います。

機会があれば、医療現場の人たちに、一般市民の方々にも観てもらいたいものです。

[女性:訪問看護師] 11月20日(日)14:00観劇

今年1月に母を癌でなくしました。

2年近くの在宅看護と、後半は病院で過ごしましたが、本当に大変で、笑い等ほとんどありませんでした。こんなふうには笑いの中で看護できたら理想ですね。

いろいろ思い出し、自分が死を迎えたらどんなふうにご経過していきたいか考えながら観ていました。

[女性] 11月23日(水)14:00観劇

■ -----

「1分1秒の延命よりも少しでも長く笑顔を与えたい」という内容のセリフがとても印象的でした。

医療従事者と患者ではなく、人間対人間として接し、笑顔をつかち合うことは、とても大切であると感じました。体中に針を刺して延命することが本当に患者さんが求めていることなのか、いつも念頭に置いておかなければならないと思いました。とても感動しました。

[無記名] 11月20日(日)14:00観劇

■ -----

たくさん笑えて、楽しい気持ちになりました。考えることもたくさんありそうです。人にもお勧めしたいです。大道具や小道具、照明、人物の入れ替わりもきれいでした。ストップモーションの使い方も印象的でした。

[女性:道化師] 11月17日(木)19:00観劇

■ -----

身近にあるのに、あまり取り上げられないテーマに興味を持ちました。

暗いイメージの「死」を、こんなに明るく楽しく観ることができてとても良かったです。

私の理想とする「死に方」がこの芝居の中にありました。

[女性:無職] 11月20日(日)14:00観劇

■ -----

とても大切な、そして誰ひとり避けては通れない問題。けれども誰も何も言わない問題。

しかもこの問題を舞台に上げるなど誰もしなかった今まで。

笑い涙のステージに喝采です!!

[女性:派遣社員] 11月17日(木)19:00観劇

■ -----

現代社会の問題を取り上げているワンツーワークスにふさわしいテーマで良かったと思います。

安楽死も選べない日本では、終末医療は切実な問題だと思います。日本中の医療関係者に見てもらいたいと思いました。岡原医師の素晴らしい活動を世の中に広めるためにも。

笑いあり、涙ありで、流れるようにテンポもよく、セリフもユーモアで笑えて楽しかったです。

ムーブメントも決まっていたかっこ良かった!

[女性] 11月19日(土)14:00観劇

■ -----
私は医学部に在籍しております。「どうして医者になりたいと思ったのか」という一番大切な「初心」に立ち返らせていただくことができました。心から感謝致します。

[医大生] 11月18日(金)19:00観劇

■ -----
医療従事者はもちろん、すべての人に観ていただきたいと思いました。

死は最大の教育、人生の初めと終わりに立ち会う人は必ず何かを感じます。それがたとえ子どもであっても。

[男性:開業医] 11月17日(木)19:00観劇

■ -----
いい本になってるなあ。いい芝居になってるなあ。

私は3月まで訪問看護師をして、終末期の在宅ケアをしてきました。

始めにしなければならないのは、「死んではいけない」「死は負けたこと」というマイナスイメージを消すことでした。そこがうまくクリアできたご家族は、見送った後、「いい死に際だったねえ」とか、「上手に死んだね」と、思い残すことなく看取りができたようでした(私の力不足でクリアできないご家族もたくさんありました)。

「死」のときも、そこには人間の成長があると感じています。そして周りの人にもたくさんの学びを残してくれていると思っています。

仕事をする中で、西洋医学ではもうすることがないとドクターに言われることがあります。でもそこにはまだ苦しんでいる患者さんが居られ、もっと何かできるはずと思って整体師になりました。緩和ケアの学びに進もうか迷っていましたが、今日、やっぱり進学しようと決心しました。

[女性:整体師] 11月19日(土)14:00観劇

■ -----
誰にでも訪れる「死」についてこんなに考えさせられることはありませんでした。

病院って? 医者って? 死ぬことって? ……たくさん考えました。これからも考えていきたいと思います。

そんなきっかけをつくってくれた芝居です。

[女性] 11月20日(日)14:00観劇

■ -----
死をテーマにしている今回の劇は、自分も含めて自分の親や周辺にある、まもなく直面するものを見せてもらった。あそこまで、死の直前までにこやかにできるのか？ 自信がない。

人の死をどう見守る？ 看取るとは……すごく考えてしまう。普通の生活ではついつい自分の心から追いついて出している部分が多いので、正面から見せられた劇でした。

[男性:会社員] 11月20日(日)14:00観劇

■ -----
生きることの意味を本日ふたたび考えさせられました。

理想ですが、みんなが笑って最期を迎えられたらいいですね!

[女性] 11月23日(水)14:00観劇

■ -----
私の祖父母のことを考えながら公演を観ていました。

昔から病気がちな祖母は一度死にかけていたのですが、その時は病院で治療して何とか延命できました。恐らく、次は看取るでしょう。

その時は明るく見送ってあげたいと思いました。素晴らしい公演でした。ありがとうございました。

[男性:会社員] 11月23日(水)14:00観劇

■ -----
重いテーマのはずなのに、なぜかストンとストレートに胸に響きました。

在宅医療の先生たちや、家族、そして何より楠美さんの気持ちが手に取るようにわかり、ほんとに良い舞台だったと思います。いっぱい泣いてしまいました!

[女性] 11月22日(火)19:00観劇

■ -----
癌の話なのに、人が死ぬということなのに、観終わった後にあったかい気分になって不思議でした。

[女性:会社員] 11月23日(水)14:00観劇

■ -----
ありがとうございました。とても素晴らしかったです。

看護師として働いて30余年になります。今までどれだけの人を見送ったのでしょうか。

お亡くなりになられた方、ご家族に対して反省です。これから少しでも、病院の中で何かできることを探していきたいです。この劇がこれで終わってしまうのはとっても残念です。ぜひ医療現場で働いている人たちに観ていただきたいと思いました。

思い、ユーモアを大切にします。

[女性:看護師] 11月20日(日)14:00観劇

■ -----

ひと言では言い表せませんが、死ぬことより、生きることを考えさせられました。

[無記名] 11月23日(水)14:00観劇

■ -----

ブルーハーツの『日曜日よりの使者』を歌うシーンがグッときて泣けてきました。この歌で泣いたのは初めてです。

自分の父も癌で亡くなったり、父方に癌の人が多いので、もしかしたら自分もいつか……なんて思ってしまいました。でも、こんなふうに少しでも死ぬまでの間に笑っていられたら、そんなふうに感じました。かぶりものがすごくよくできていて、可愛かったです。

[女性] 11月23日(水)14:00観劇

■ -----